

多元研所長選挙候補者所信表明書

令和5年 12月 6日

ふりがな	ふくやま ひろゆき
氏名	福山 博之
生年月日	1965年 9月 4日生 (満58歳)



略歴

学位 博士（工学）（名古屋大学、平成5年3月）

職歴

平成5年3月	名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程修了
平成5年4月	名古屋大学工学部助手
平成8年4月	東京工業大学工学部助手
平成10年1月	東京工業大学工学部助教授
平成10年4月	東京工業大学大学院理工学研究科助教授
平成16年4月	東北大学多元物質科学研究所 附属資源変換・再生研究センター助教授
平成19年4月	東北大学多元物質科学研究所教授
平成20年4月	東北大学多元物質科学研究所 附属窒化物ナノ・エレクトロニクス材料研究センター教授
平成24年4月	東北大学多元物質科学研究所教授
平成27年4月	東北大学多元物質科学研究所副研究所長（令和6年3月まで）
平成30年4月	東北大学多元物質科学研究所 附属金属資源プロセス研究センター教授

抱負等

多元研は、(材料・プロセス・計測) 分野の高度な技術を有する多様な研究分野をカバーすることによって、社会のニーズに広く対応し、優れた研究成果を社会に還元すると同時に、次世代を担う若手研究者を育成する役割を求められています。これらの要求に答えていくためには、多元研の足腰をより強くすることが必要となります。これを踏まえて、いくつか推進したいポイントを挙げたいと思います。

1. ナノテラスならびにソフトマテリアル拠点を活用した研究の推進

SRIS と協力してナノテラスを活用した研究・教育活動が円滑に機能するようにしたいと思います。ソフトマテリアル拠点は、今後、多元研の教員が中核となって活動しやすい運営体制を整えたいと思います。

2. 産学連携活動の推進

共創研究所および共同研究部門を活用した産学連携を推進し、中長期的な企業との信頼関係を築きたいと思います。

3. 拠点・アライアンス活動の活性化

多元研がリーダーシップをとって、研究所間のシナジー効果を発揮し、優れたアウトプットにつながるような運営をするにはどうしたらよいか、考えたいと思います。

4. 国際的な学術交流の推進

活発な交流実績のあるメルボルン大学、ケースウェスタンリザーブ大学、北京科技大学、台北科技大、アルビ鉱山大学などとの交流を継続し、若手教員や学生の海外派遣ならびに国際共著論文に結びつくような学術交流を推進したいと思います。

5. 材料科学世界トップレベル拠点への貢献

本学が特に強みを有する材料科学分野において、多元研は、AIMR、金研、工学研究科、理学研究科の材料研究者と協力し、国際的なプレゼンスを高めるために貢献したいと思います。

6. 職域を超えたコミュニケーションの醸成

学生を含め多元研に関連する人々が心身ともに健康で、職域を超えたつながりを実感できるような場を創出したいと思います。また、そのための施設整備を継続的に実施したいと思います。